

# ロータリー インパクト ハンドブック

測定を通じて奉仕活動のインパクトを示す

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

はじめに	2
測定とその重要性	5
目標への道筋をつくる	13
指標を選ぶ	20
必要なデータを集める	26
データを使ってストーリーを伝える	33
測定してインパクトを示す	37
リソース	38



以下をクリックしてページをお開き  
いただけます



## このハンドブックの使い方

ロータリー会員は、手を取りあって活動し、地域社会に持続的な変化をもたらしています。このことを多くの人に知ってもらうには、活動のインパクトを正確に把握する必要があります。

このハンドブックは、ロータリー財団の補助金を利用するかどうかにかかわらず、クラブと地区的すべての奉仕プロジェクトの成果をどのように測定するかを計画する際にお役立ていただくものです。

測定の方法、事例、実証された手法など、さまざまなアプローチが紹介されています。また、自分のアイデアを書きとめ、学んだことを実践に応用するために考察する欄もあります。これらの欄を使用して、実施中・計画中のプロジ

エクトの成果を測定し、重要なデータを集める方法を考えてみましょう。

集めたデータは、何がうまくいき、何がうまくいっていないかを知る重要な手段となります。また、人びとの行動意欲や関心をかき立てるような形でプロジェクトについて伝えるために、これらのデータを活用できます。データを使ってインパクトを示すことで、新たなパートナーシップやファンドレイジング（資金調達）の機会が生まれ、入会への関心が高まり、地域社会との関係がさらに深まるでしょう。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます



## 用語の説明

以下は、プロジェクトの成果測定でよく使われるコンセプトです：

**基準値（ベースライン）**：プロジェクトの開始前に、地域社会調査などを行って収集するデータ。その後、プロジェクトの実施中に収集するデータと基準値を比較し、目標に向けた進捗を測定できる。

**最終値（エンドライン）**：プロジェクトの終了時に収集するデータ。最終値と基準値と比較することで、プロジェクトの成果、または生み出された変化を説明できる。

**インパクト**：活動によってもたらされた長期的な変化。活動がなければもたらされなかつた、測定可能な変化である。

**指標**：プロジェクトの成果・目標と関連し、進捗と変化の証拠となる測定可能なデータポイント。

**投入リソース（インプット）**：プロジェクトに投入する資金、時間、研修、そのほかの物資。

**測定**：標準的な方法を用いて特定の指標を評価すること。

**モニタリングと評価**：プロジェクトの進捗と実績を評価するために、体系的にデータを集めて記録・確認すること。

**成果**：活動の中期的な結果（対象者の態度や行動の変容など）。

**結果（アウトプット）**：活動の即時の結果（研修を受けた人の数、提供した物資の量など）。

**持続可能性**：成果が現地で維持され、地域社会の継続的なニーズに応えていくこと。

**変革理論**：プロジェクトの意図したインパクトがどのような状況下でどのように達成されるかを説明したもの。現状分析、提案されている活動、投入リソース、結果、成果、インパクトの評価などを含む。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます



## 「インパクト」という言葉について

ロータリーでは、プロジェクトの「インパクト」とは活動によつてもたらされるポジティブで長期的な変化を指します。このような変化は、より幅広い長期的目標と密接に結びついています。例えば、多くのグローバルな保健プロジェクトが国連の持続可能な開発目標（SDGs）に沿っているように、ロータリーでは多くのプロジェクトが財団の使命声明とロータリーの重点分野（およびその目標）に沿っています。それぞれの重点分野の目標は、SDGsの目標も反映しています。

プロジェクトの究極の目標は「インパクトをもたらす」ことであり、これは、プロジェクトの成果を積み重ねることによって達成できます。「**成果とは歩んでいく道のりを示し、インパクトとは最終目的地である**」と考えるとよいでしょう。

インパクトの測定は複合的で長期的なプロセスです。通常、奉仕プロジェクトの実施中にインパクトを判断することはできません。プロジェクトのさまざまな活動を通じて、一つひとつの成果が達成されます。その過程において定期的な測定を行うことで、何がうまくいっているか、何がうまくいっていないかを把握し、必要に応じて調整できます。

活動のインパクトを把握し、測定することは、リソースが適切に割り当てられているか、活動が効果的であるかどうかを判断する上で不可欠です。

測定可能なインパクトの例：

- ➔ 妊産婦の罹患率と死亡率の減少
- ➔ 教育におけるジェンダー格差の減少
- ➔ 下痢性疾患の発生率の低下
- ➔ 森林伐採率の低下
- ➔ 水質検査に合格する水域の割合の増加

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## この章のポイント:

- 体系的に進捗を記録・確認することはなぜ重要なのか
- どの時点でデータを測定するか
- モニタリングと評価を誰が行うか

## 測定がなぜ重要なのか

データを測定し、活用することで、プロジェクトの進捗を確認し、必要に応じて軌道修正できます。また成果を示す証拠を残すことができます。具体的には、

- ・ 進捗を測ることで**説明責任が促される**。これにより、報告書の信頼性が増し、問題点があれば調整を検討できる。
- ・ 信頼性のある情報を示すことで**プロジェクトへの認知と関心が高まる**。これにより、ほかのロータリー会員、他団体、地域社会の人びとからの、同様の取り組みへのサポートが増える可能性がある。
- ・ クラブとロータリー全体の**知識が蓄えられる**。データの収集と分析を通じて、何がうまくいったか、何がうまくいかなかったかについての貴重な洞察を得られ、同様のプロジェクトを成功させるのに役立つ。

- ・ プロジェクトの活動の効果を定期的に評価するため、**持続可能性が高まる**。これにより、長期的な成功のためによりよくリソースと資金を配分できる。

クラブがプロジェクトの成果を記録し、共有することで、以下のことが可能になります：

- ・ さらなる注目を集めること
- ・ 入会への関心を高める
- ・ 資金を確保する
- ・ 新たなパートナーシップを築く

成功の証が示されれば、ロータリーの信頼性が増すだけでなく、会員の自信にもつながります。

**測定のメリットは、大小にかかわらず、あらゆるプロジェクトに共通することを忘れないでください。**

## 進捗の測定

地域社会の調査で集めた情報を、測定の基準として使用できます。地域社会の調査は、プロジェクト開始前の現状を記録する意味でも重要です。さらに、中間測定と最終測定を基にしてプロジェクトの進捗を把握し、プロジェクトが完了したかどうかを判断できます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



## プロジェクトの測定開始のタイミング

次のような状況を思い浮かべてください。あなたのクラブは、カンボジアの教師たちから、現地の小学生の多くが欠席しがちであることを聞きました。これを懸念した会員たちは、援助できるかもしれないと考え、まずは生徒たちが欠席する理由を知りたいと考えました。

あなたは、ほかの会員と現地に赴き、学校運営者、教師、保護者、生徒、地元の診療所スタッフなど、地域社会を代表する人たちとともに地域社会の調査を行うことから始めました。あなたは、欠席する生徒が確かに多いことを確認したほか、診療所では下痢性疾患や脱水症状の子どもの治療が多く行われていることを知りました。あなたが話をした人たちは、学校の衛生状態が病気の蔓延と関係しているのではないかと考えています。

そこであなたは、学校の環境条件、水・衛生設備の状況、衛生習慣などを観察し、文書に記録し始めました（水へのアクセス状況、利用状況、水質、改善された衛生設備へのアクセス、石鹼の利用状況、手洗い場の有無、トイレ使用後と食事前の手洗い習慣など）。学校からは過去12カ月間の病欠数のデータ、診療所からは同じ期間に下痢疾患の治療を受けた子どもの数のデータを提供してもらいました。

この調査結果に基づき、地元の代表者とあなたは、適切な手洗い習慣を促し、学校の衛生施設へのアクセスを改善することに焦点を当てたプロジェクトを実施することを提案しました。

計画段階では、まず、即時に期待される結果は何かを明確に定めました（学校に市営水道がつながる、新しい手洗い場が設置される、国の衛生カリキュラムで〇〇人の教師が研修を受ける、手洗いの大切さについて子どもたちの意識が高まる、など）。また、安全に管理された水道へのアクセスの改善、トイレの使用後と食事前に手を洗う子どもの増加など、期待される成果（中間的な結果）を定め、「水と衛生」の重点分野に一致したプロジェクト目標を立てました。

プロジェクトを開始したら、次のことを把握していく必要があります：

- プロジェクトは計画通りに進んでいるかどうか
- 計画段階で定めた成果と目標に向けた進捗が見られるかどうか
- 意図した対象者全員に影響が行きわたるよう、戦略を練り直す必要があるかどうか
- プロジェクトの完了後、達成について何を伝えるか

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

これらの質問に答えるには、意図する結果と成果に向けた進捗を測定する計画を立て、情報を集めていく必要があります。

数年間にわたってデータを収集し、病気による欠席数や生徒の下痢性疾患の罹患率に変化が見られるかどうかを確認していくことになります。

## モニタリングと評価とは

モニタリングと評価は、プロジェクトが期待通りに進んでいるかどうか、意図した変化が生み出されているかどうかを測定するためのもので、データの収集と分析、証拠と情報に基づいた意思決定などが含まれます。そのための計画

を立てることで、目標と進捗の測定方法を明確に定められるだけでなく、プロジェクトを計画通りに進め、成果を測定し、必要な改善点を特定してよりよい成果へつなげることができます。

## モニタリングと評価の計画を立てる

このプロセスは、現状を把握するための**地域社会の調査**から始まります。この調査で、地域社会の資産や、意図した変化を生み出すまでの課題などを特定します。まず、**問題の根底にある原因を突き止める**ために、さまざまな問い合わせ立ててみましょう。これを基に、プロジェクトの計画だけでなく、モニタリングの計画を立てることができます。これには以下の要素が含まれます：

- **プロジェクトの目標**: 例えば、「カンボジアのコック州の学齢期の子どもの衛生習慣を改善する」などがあります。

- **より大きくて長期的な目標に沿ったプロジェクト**: 例えば、「局所的な下痢性疾患の発生率を低下させる」などがあります。
- **投入リソース、結果、期待する成果**: 地域社会調査の結果と基準値を基に、投入リソース、結果、期待する成果を明確にします（プロジェクト実施中にこれらを測定していくことになる）。
- **指標**: 例えば、「学校の手洗い場の数」、「手洗いの研修を受けた教師の数」、「手洗い習慣の変化」、「生徒の手洗いの頻度」などが考えられます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



- ・ **データの収集・分析方法**: 例えば、研修の前後に実施するアンケート、教師、学校運営者、地域社会の人びとへのインタビューなどを通じて、態度、知識、能力における変化を確認できます。プロジェクトの実施前・中・後に生徒の出欠記録や公衆衛生データを確認すれば、出席率が上昇しているかどうか、子どもの下痢性疾患の発生率が低下しているかどうかを調べることができます。
- ・ **データ収集の頻度**: 収集の頻度は、指標の種類や情報の利用方法によって異なります。例えば、研修を受けた教師の数は四半期ごと、生徒の出席率の変化は年単位、といった具合です。

## 「評価」についてはどうか

「評価」はモニタリングと評価のプロセスの重要な要素ですが、このハンドブックでは詳しく扱っていません。評価は、プロジェクトの効果、効率、重要性を測るために包括的なアプローチを必要とし、通常、プロジェクト実施中または完了後の特定の時点で行われます。ただし、このハンドブックでは「測定」（プロジェクトが意図した結果を満たしたかどうかを示す証拠の収集など）に焦点を当てています。評価について詳しく知りたい方は、このハンドブックの最後に紹介されているリソースをご参照ください。

- ・ **担当者**: データ収集を担当する人を決めておきます（プロジェクトマネジャーなど）。また、地元の非営利団体と提携して直接データを集めたり、別の情報源からデータを要請したりすることもできます。
- ・ **評価結果の報告**: 補助金プロジェクトの場合には報告書の提出が義務づけられていますが、クラブ例会や地区大会でも結果を報告しましょう。
- ・ **学びと適応**: どのような変化をもたらしたいのか、学んだことをどこでどのように共有できるかを考えましょう。データと評価結果を記録としてクラブで保存し、新しいプロジェクトにその情報を生かすことができます。

## ロータリーにおけるこのアプローチの適用

このアプローチの要素（目標の設定、目標達成に向けた活動の記述、指標の選定、進捗の測定、参加者の特定など）は、ロータリーが推奨するプロジェクト立案のプロセスに既に含まれています。このハンドブックの最後に、測定計画を立てるのに役立つ各種リソースが紹介されています。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

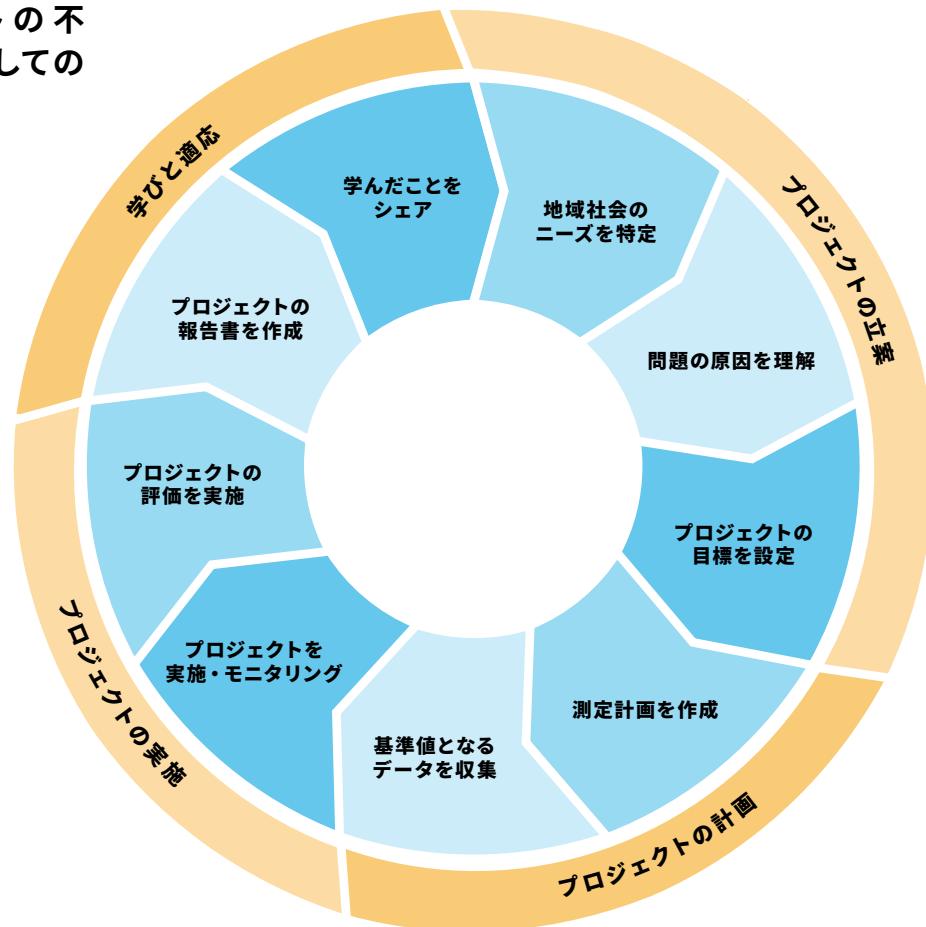
リソース

## 測定の計画を立てるタイミング

特定の活動がなぜ目標達成につながるのかを考えるためにも、プロジェクト立案の早い段階でモニタリングと評価の計画を立てるべきです。各活動がもたらす変化をより明確に捉えることで、プロジェクトの成果を人びとによりよ

く伝えることができます。収集した証拠と測定データは、ロータリーがもたらすインパクトを紹介する際に利用できます。

## プロジェクトの不可欠な部分としての「測定」





## 測定計画を実践に移す

クラブが実施している／計画しているプロジェクトについて考え、どのような測定を行うかについてアイデアを挙げてみましょう。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



## 誰が測定にかかわるか

測定は、プロジェクトマネジャー、ロータリー会員、協力団体、実施パートナー、地元の関連団体など、プロジェクトチーム全体が協力して取り組む必要があります。

さまざまな団体との協力を通じて、計画と測定をより有意義に行い、プロジェクトの持続可能性を高めることができます。関連グループには、プロジェクトの直接的な受益者だけでなく、地域社会のリーダー、政府や地方自治体の関係者、地元団体、寄付者も含まれます。

前述のカンボジアの例を使った場合、誰が測定に協力できるか考えてみましょう。

- 学校運営者
- 教職員
- 学生
- 保護者とPTA
- 政府や地元自治体（保健省、教育局など）
- 地元の教育団体
- 地元の科学技術コンサルタント

それぞれのグループは、プロジェクトに対して独自の見解、専門知識、関心を持っています。地域社会の調査の段階でこれらのグループに意見を求め、これをプロジェクト戦略やデータ測定に反映させ、正確で有用なデータを得ることが重要です。データの収集と分析に協力してもらうことで、地元の重要な事柄について多様な洞察が得られるだけでなく、プロジェクトの投入リソース、結果、成果について共通の理解を築くことができます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



## 実践に移す：関連グループの特定

同じプロジェクトの例を使用して、このプロジェクトにおける重要人物や団体をリストアップしてください。

プロジェクト全期を通じて常に進捗を知らせるべき人と団体をリストアップしてください。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに  
測定とその重要性  
目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ  
必要なデータを  
集める  
データを使って  
ストーリーを伝える  
測定して  
インパクトを示す  
リソース

この章のポイント:

- ➔ 変革理論とは何か
- ➔ なぜそれがプロジェクトの立案と戦略にとって重要なのか

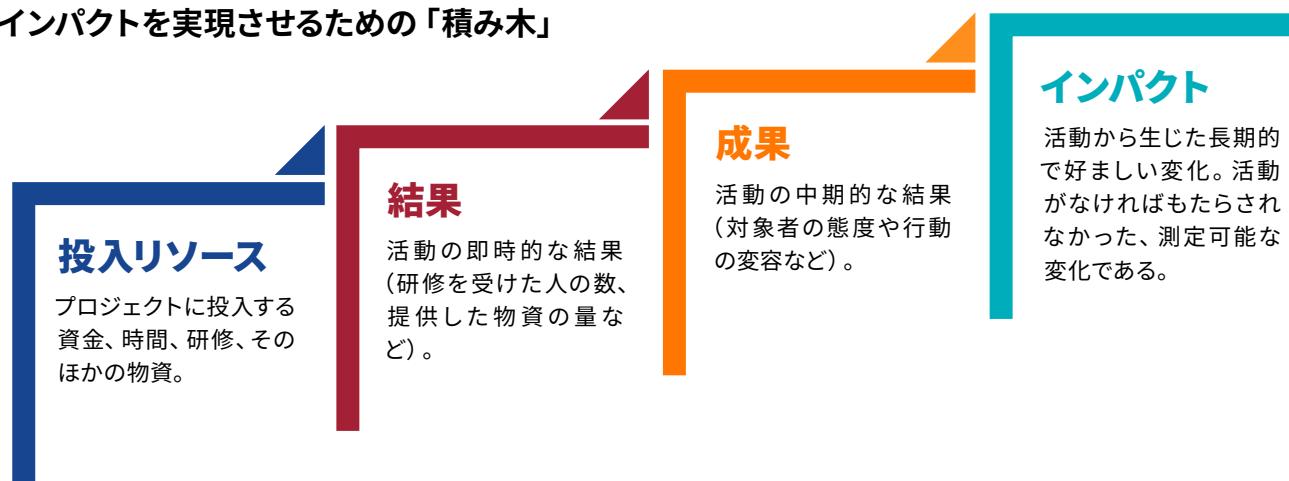
- ➔ 変革理論をどのように作成できるか

## 「変革理論」とは

変革理論とは、期待通りの成果を上げ、長期的な変化を実現するためにプロジェクトが用いる論理とプロセスを説明したものです。変革理論を作成することで、収集すべき指標とデータの種類を特定し、意図する成果に向けた進捗が見られるかどうかを判断できます。

以下のステップは、変革理論の主な部分を表しています。主にこれらの要素（投入リソース、結果、成果、インパクト）が、プロジェクト戦略を決定づけることとなります。

## インパクトを実現させるための「積み木」



以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

## 変革理論の価値

プロジェクト戦略と測定のアプローチは、互いに結びついています。プロジェクトを実施する場合は、その目標に向けた進捗を知るための測定も必ず行います。変革理論を用いることで、戦略と測定に整合性をもたせ、プロジェク

トがなぜそのような構成であるのかを説明できます。用いるアプローチと測定を変革理論に組み入れることで、プロジェクトの土台となる論理を明確にすることができます。

## 変革理論をどのように作成するか

### 例：「手洗いプロジェクト」の流れを組み立てる

前述のカンボジアでの衛生プロジェクトを例にとって変革理論を作成してみましょう。

期待するインパクトは、子どもたちの下痢性疾患の発生率を下げることです。このため、以下の点について考える必要があります：

- 期待するインパクトを実現するには、このプロジェクトを通じてどの程度の成果を上げる必要があるか：**このプロジェクトは、学齢期の子どもの衛生習慣を改善し、地元の学校の衛生施設へのアクセスを増やすことに取り組むものです。
- これらの成果を達成するには、何が起こる（結果）必要があるか：**まず、学齢期の子どもの現在の習慣はどのようなものかを、プロジェクトチームが判断します。

その上で、パートナー団体とともに以下の活動を通じて衛生習慣の改善に取り組みます。

- 手洗いのメリットとタイミング（食事前、トイレ使用後など）について教師と生徒の意識を高める。
- 石鹼の使用など、手洗いの改善方法を指導する。

また、以下の活動を通じて地元学校の衛生施設へのアクセスの増加に取り組みます：

- 蛇口、パイプ、水源といった重要な資材へのアクセスを増やす。
- 手洗い場を設置または改良する。
- 石鹼など、常時必要な備品を学校予算に含める。

変化が起きるまでの論理が固まるまで、これを続けます。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



3. これを達成するために実行する活動（投入リソース）を挙げる：例として、以下のような活動があります。
  - ➔ 教師が生徒に指導を行うための手洗いカリキュラムを作成する。
  - ➔ カリキュラムの使い方について教師を研修する。
  - ➔ 学校に貼る手洗い啓発ポスターをデザインする。
  - ➔ 学校内外の便利な場所に手洗い施設を設置する（水源へのアクセスと石鹼の提供を含む）。
  - ➔ 学校運営者と協力してこれらの施設を管理し、備品の費用を学校予算に含めることでプロジェクトの持続可能性を確保する。

4. 最後に、プロジェクトに影響しうる想定事項を検討する：
  - ➔ 石鹼などの備品は手頃な価格で、簡単に入手できるか。
  - ➔ 教師と生徒は、新しい衛生習慣を学ぶことに意欲的か。
  - ➔ プロジェクトを中断させる出来事にはどのようなものがあるか（労働者ストライキ、学校の休業、自然災害など）。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

- はじめに
- 測定とその重要性
- 目標への  
道筋をつくる
- 指標を選ぶ
- 必要なデータを  
集める
- データを使って  
ストーリーを伝える
- 測定して  
インパクトを示す
- リソース

## 「IF-THEN-BECAUSE」の論法

変革理論を記述するもう一つの方法に、「if-then-because」（こうすれば、こうなる。なぜなら～だから）という論法があります：

手洗い場へのアクセスを改善し、手洗いカリキュラムの使い方について教師を研修すれば、

学齢期の子どもの下痢性疾患の発生率が減少し、生徒の出席率がよくなる。

なぜなら、生徒たちがトイレ使用後と食事前の適切な衛生習慣を実践することで、手が除菌されるからである。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに  
測定とその重要性

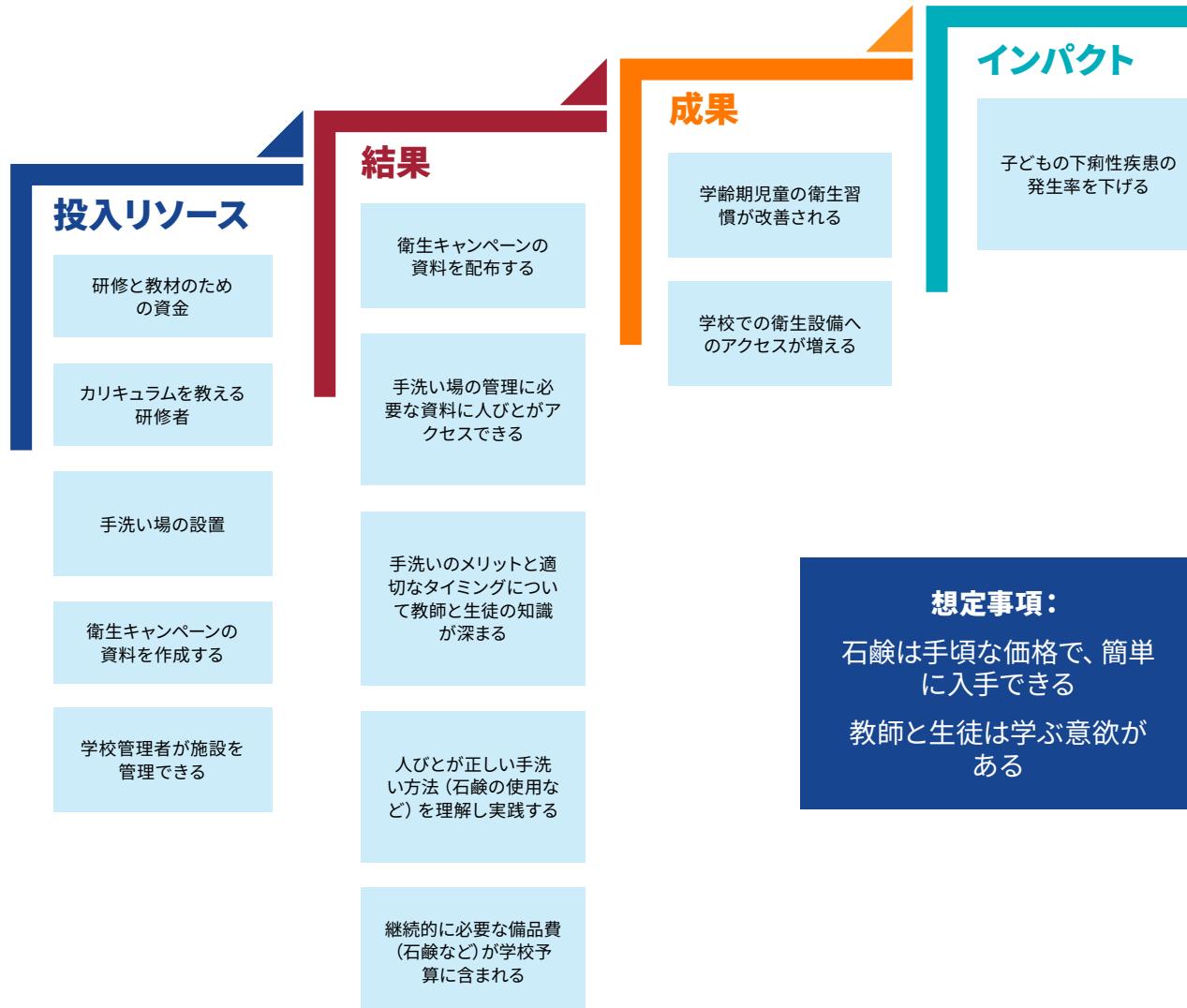
目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ  
必要なデータを  
集める  
データを使って  
ストーリーを伝える  
測定して  
インパクトを示す  
リソース

## 理論を組み立てる



以下は、カンボジアの衛生プロジェクトを例にとり、「積み木」方式で変革理論を示しています。



変革理論を組み立てる際には、プロジェクトの実施中に進捗を確認するための指標も定めます。以下のような指標を選ぶようにします：

- トイレ使用後と食事前に手を洗う学齢期の子どもの割合の変化
- 研修を受け、教材について理解を示している教師の割合

## 変革理論を実践に移す

プロジェクトが目指すインパクトの目標は何ですか。



プロジェクトで期待する成果は何ですか。

- 正しい手洗い方法の研修を受けた教師の割合
- 研修を受け、授業で手洗いカリキュラムを使用している教師の割合
- 新設された手洗い施設の数

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに  
測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

これらの成果を達成するには、何が起こる必要がありますか／どのような結果（アウトプット）が必要ですか。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

これらの成果を達成するには、どのような活動が必要ですか。

活動に必要な投入リソース（資金、時間、物資、研修など）は何ですか。

教材の入手可能性や研修に対する教師の意欲など、プロジェクトについてどのような想定事項がありますか。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

成果と目標に向けた進捗を測定するために、どのような指標を使用しますか。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

次に、これらを一つにまとめて変革理論の概要を描きます。どのような投入リソースと活動が必要とされるか、また、これらの活動の結果として何が期待されるのかを明確に示してください。前掲の「積み木」方式を使うか、「if-then-because」の論法を用いてみましょう。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

## この章のポイント：

- ➔ 指標とは何か、なぜ重要なのか
- ➔ どのような指標を使用できるか

- ➔ 指標を効果的に使うにはどうすればよいか

## 指標とは何か、なぜ重要なのか

指標とは、プロジェクトの進捗を測るために観察、収集、分析できるデータポイントです（数値の場合もあれば、そうでない場合もあります）。

指標は、プロジェクトの測定と評価において重要な役割を果たします：

- プロジェクトの成果に向けた進捗を確認・記録する方法となる。比較基準が得られるため、期待する変化をもたらすためにプロジェクトが順調に進んでいくかどうかを確認できる。
- 情報に基づいて決定を行うための根拠となる。指標を確認・記録することで、成功、課題、改善点を特定できる。
- プロジェクトの達成に関する明確な情報と証拠が得られるため、透明性と説明責任が促される。

- 何がうまく行き、何がうまく行かなかったかについての洞察が得られ、学びと向上が促進される。プロジェクトの強みと弱みを特定し、学んだことを生かして戦略を改良し、手法を調整し、今後のプロジェクトを改善できる。
- 関係グループや受益者にプロジェクトの進捗と達成を報告するための共有資料となる。また、プロジェクトのストーリーをより説得力ある方法で伝えるために役立てることができる。

プロジェクトの測定で用いる指標は、変革理論のさまざまな要素（投入リソース、結果、成果、インパクト）に沿ったものとします。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース



この表は、カンボジアの衛生プロジェクトの例を基に、測定に用いられる四つの一般的な指標を示しています。

指標の種類	投入リソース	結果	成果	インパクト
<b>定義</b>	プロジェクトに投入する資金、時間、研修、そのほかの物資を測定。	活動の即時的な結果（研修を受けた人の数、提供した物資の量など）を測定。	活動の中長期的な結果（対象者の態度や行動の変容など）を測定。	活動から生じた長期的な変化を測定。活動がなければもたらされなかつた、測定可能な変化である。
<b>例</b>	研修者の数、研修のための資金の額、利用可能なキャンペーン資料の数。	衛生と行動変容のカリキュラムを使用するため研修を受けた教師と管理者の数。生徒一人あたりの水・衛生の教育資料の数。	基本的な衛生サービス（水と石鹼が利用できる手洗い施設）の数、安全に管理された衛生設備にアクセスできるようになった生徒の数、衛生に関する生徒の考え方や習慣における好ましい変化。	子どもの下痢性疾患の発生数、プロジェクト終了から6カ月後／12カ月後の学校の欠席数。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを集める

データを使ってストーリーを伝える

測定してインパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 効果的な指標とは

以下のヒントに沿って効果的な指標を選ぶことは、目標への進捗を確認するための有用な洞察を得る上で重要となります。

- プロジェクトの目標に沿った指標を選ぶ**: 成果を直接測ることのできる指標を選びましょう。これらの指標はプロジェクトの目的と関連したものである必要があります。
- 具体的で測定可能な指標を選ぶ**: 何を測定するのかを明確に決めてことで、データの収集と分析がしやすくなります。
- 達成期限を含む達成可能な指標を選ぶ**: これにより、現実的な目標を定め、進み具合をより的確に判断できます。
- 最も大切な指標に絞る**: 今後の実行項目や対策へつながる有意義な情報を集めることのできる少数の指標に絞りましょう。
- 質的および量的な指標の両方を使う**: 量的な指標は重要ですが、質的データの価値を見落とさないでください。質的データをどのように活用できるかを検討しましょう。

- 現実的な指標とターゲットを定める**: プロジェクトのリソースとタイムラインを考慮して実用的な指標を選びましょう。ターゲットは高めに設定すべきですが、達成が可能である必要があります。非現実的な指標やターゲットは、参加者のモチベーション低下につながり、正確な進捗の把握を妨げる可能性があります。
- 選んだ指標を、さらに細かいカテゴリーに分ける**: 人びとの収入、ジェンダー、年齢、人種、民族、移住者ステータス、障がい、場所などの情報ごとに並べ替える方法でデータを集めることで、大規模なデータセットからはわからない特定グループのパターンや不平等を見つけることができます。
- 定期的に指標を見直し、更新する**: 状況や優先事項が変わる可能性があるため、指標の関連性や効果について定期的に評価を行い、必要に応じて調整しましょう。

これらを満たす指標は、進捗を測定し、プロジェクトの成功を評価し、情報に基づく意思決定を行うための貴重な手段となります。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 指標に関するそのほかの検討事項

指標を選ぶ際には、前述のヒントに加え、以下のポイントも検討しましょう。

### 指標の示し方

指標は、数量や割合で示すことができます。

割合の場合、特定の成果による数を、対象者の人口数で割った数値を使います。

### データソース

指標に関するデータをどのソースから入手できるかを特定します。

これには、既存のソースまたは独自に作成する新しいデータソースが含まれます。

### データの頻度

データ収集の頻度を検討しましょう。

毎日、毎月、毎年など、進捗を把握し、意思決定を行うための情報の必要性に応じて頻度を決めます。

### 例

**数量**：配布された防虫加工済みの蚊帳の数

**割合**：就寝時に防虫加工済みの蚊帳を使っている5歳未満の子どもの割合

### 例

**既存のソース**：官庁の報告書、データベース、学校の出席記録、対象者への既存の調査結果

**独自に作成するソース**：アンケート調査、インタビュー、観察フォーム

### 例

**毎日**：ワクチンの配布数

**毎月**：各種レポート

**毎年**：アンケート調査

**プロジェクト終了時**：基準値と最終値の比較

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 



## 指標を実践に移す

あなたのプロジェクトで用いる指標を挙げてください。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

### よくある指標「受益者の数」について考え方

多くの人が最初に考える指標の一つに、「プロジェクトから恩恵を受けた人の数」があります。しかし、これは理想的な指標ではありません。具体性がなく、プロジェクトで期待する変化についての情報をもたらしません。

詳細を含まない指標は曖昧であり、直接的に恩恵を受けた人、間接的に恩恵を受けた人を区別していません。

有意義な測定と報告を行うには、指標を絞り込み、プロジェクトから誰が恩恵を受けたか、どのような変化を経験したかについての具体的な情報を含める必要があります。

以下は留意点です：

- 対象者を明確に定義する**：農村部の低所得層の女性、特定の学区や学校の学齢期の子どもなど、支援の対象となる人を明確に定めます。
- プロジェクトの具体的な成果の詳細を含める**：例えば、スキルの習熟度、就職率、健康状態の改善などを測定します。
- 直接的、間接的に影響を受ける人を区別する**：活動の影響を直接に受けた人とそうでない人を明確に区別します。
- 質的データを集める**：インタビュー、フォーカスグループ、自由回答形式のアンケートなどを使用して、人びとの考え方や経験について詳細な情報を集めます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

## 既存の指標を使用する

ロータリーは、すべての会員向けに、重点分野に沿ったプロジェクト指標のリストを作成しています。これらの既存の指標を使用することで、プロジェクトをロータリーの目的と重点分野に沿ったものとすることができます。また、既存のフレームワークを利用すれば、時間とリソースを節約できます。

教育、医療、気候変動、平和構築、衛生など、多くの分野の活動に特化した指標が挙げられています。これらの指標に関する情報は、このハンドブックの最後の部分をご覧ください。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## この章のポイント:

- ➔ 測定の範囲をどのように決めるか
- ➔ 測定に必要なデータをどのように入手するか
- ➔ どのような種類のデータが必要か

## どの程度測定するか

測定ニーズを検討する際、まずはプロジェクトの範囲について考えましょう。そうすることで、プロジェクトの規模と複雑さに応じたデータを収集できます。

例えば、近隣の清掃といった小規模な社会奉仕プロジェクトの場合、ボランティアの人数や活動に費やした時間（**投入リソース**）、収集したゴミの量（**結果**）を確認するために、観察とカウントを通じてデータを収集できます。この活動により「公共スペースがきれいで利用しやすくなる」という**成果**がもたらされ、これは活動前後の写真や動画で記録できます。このプロジェクトの測定に必要な道具は、ペン、紙、スマートフォン（またはカメラ）だけかもしれません。

これとは対照的に、予防接種キャンペーンなどの大規模な公衆衛生プロジェクトの場合、費やす時間、資金、ワクチンの数など（**投入リソース**）を記録するための、より洗練された手段が必要になります。投与されたワクチンの数（**結果**）に関するデータは、複数の医療施設からデータを提出してもらって集計することになるかもしれません。さらに、対象地域のワクチン接種率（**成果**）をモニタリングするために、アンケート調査と公的の人口統計データを使用する必要もあるかもしれません。こうしたデータ収集の取り組みは、情報に基づく意思決定を行い、病気の罹患率を減らすという目標（**インパクト**）に向けた進捗の確認に役立ちます。

一般的に、プロジェクト予算の一部を、モニタリングと評価の費用（現地での交通費、個人や代理店によるサービス、備品など）に充てることを検討できます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 必要なデータは何か、どのように入手するか

プロジェクトの種類や指標によっては、自身や協力団体がデータを収集する必要がある場合と、既存データ（二次データ）を使用できる場合があります。

データを選ぶ方法は、プロジェクトの目的、必要なデータの種類、利用可能なリソースによって異なります。適切かつ信頼性が高く、倫理的な方法でデータを入手するためには、慎重に計画を立てることが重要です。

### 「数字」によるデータと「言葉」によるデータ

データには、量的（数字）なデータと質的（言葉）なデータの二種類があります：

- 量的データは、変化の程度を測るもので、進捗を数値で確認でき、質的データよりも客観的かつ簡単に分析できますが、人びとの複雑な体験を捉えたり、全体像を把握したりできない場合があります。

- 定性的データは、人びとの態度や行動の変容に関する洞察を与えます。通常、分析が難しい一方で、人びとの意識や考え方に関する貴重な情報となります。この情報は、プロジェクトが人びとの生活に与える影響を説明し、収集した量的データの背後にある動機や理由を探るのに役立ちます。

成果をより包括的に理解するために、質的データと量的データを組み合わせて使用するのが一般的です。

### データソース

必要なデータをどこから得られるかを考えることから始めましょう。

- 観察：起こることを観察することでデータを収集できるか。

- 人びと：情報を得るために、プロジェクトの影響を受けた人や地域社会のそのほかの人と交流する必要があるか。
- 資料：管理記録、ウェブページ、会議メモなどの資料からデータを見つけることができるか。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## データ収集の方法

必要なデータを特定したら、入手方法を考えましょう。

『[地域社会調査の実施](#)』のハンドブックには、以下の表にある方法など、さまざまなデータ収集方法を活用するためのヒントが紹介されています。

以下の表で、データ収集の一般的な方法、各データのメリットと制約をご覗ください。

情報収集の方法	例	利点	制約
観察	直接的な観察、動画での観察	プロジェクトの詳細な記録を残し、非言語的な手がかりを得る	時間がかかり、プロジェクトの全側面を把握できない可能性がある
フォーカスグループ	グループ討論、モレーター付き円卓討論	グループダイナミクスを生かして多様な視点を捉える	グループ内で力のある人の影響を受けやすく、対象者人口の全体が反映されない可能性がある
インタビュー	構造化インタビュー（決まった順序で定められた質問を尋ねる）、半構造化インタビュー（定められた質問を尋ねる）、非構造化インタビュー（質問が定められていない）	地域社会やプロジェクトに関する洞察をもたらし、提唱者のニーズに合わせて情報をカスタマイズできる	多くの時間と費用がかかり、対象者人口の全体が反映されない可能性がある

# 必要なデータを 集める

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

情報収集の方法	例	利点	制約
アンケート調査	質問紙調査、意見フォーム	簡単に分析できる量的・質的なデータが得られ、大勢の人に対して実施できる	回答バイアスの影響を受ける可能性がある、プロジェクトの全側面を把握できない可能性がある
カウント	集計シート、チェックリスト、トラフィックカウンター	簡単に分析できる量的なデータが得られ、時間の経過に伴う変化を確認できる	プロジェクトの全側面を把握できない可能性がある、観察者からのバイアスが反映される可能性がある
資料調査	補助金の記録または報告書、会議のメモ、登録フォーム、政策文書、ウェブページ	プロジェクトの記録を残し、時間の経過とともに進捗を確認できる	プロジェクトの全側面を把握できない可能性がある、情報が最新ではない可能性がある
マッピング	地理情報システム、衛星画像、手描きのコミュニティマップ、過去のプロジェクトのマッピング	パターンや関係を特定するために使用できる空間データを得ることができ、視覚化ができる	専門知識が必要とされる場合がある
参加型の手法	参加型農村調査法、マッピング調査、フォトボイス（参加型ビデオ）	地域住民にデータ収集プロセスに参加してもらう、地元の知識や視点を記録できる	より多くの時間とリソース、またはファシリテーターが必要となる可能性がある、対象者人口の全体が反映されない可能性がある

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

## 誰がデータを収集するか

データの収集には、時間、リソース、専門知識が必要とされます。プロジェクト担当チームにそのようなメンバーがない場合、協力団体や協力者の力を借りる必要があります。また、地元の事情に通じている人がデータ収集を行うべきです。このため、多くの場合、地方自治体、非政府団体、大学、地元市民がデータを収集する最適な立場にあります。

## 地域社会の参加

データ収集のプロセスに人びとに参加してもらうことで、地域社会のかかわりを深め、信頼を築き、より正確で有意義なデータを収集できます。ただし、参加型の方法では、地元の人びとの力関係や地域を反映した代表者選び、データの所有権、守秘義務といった倫理的な考慮事項もあります。このため、参加型の方法を用いた経験のある他団体や人と協力することをお勧めします。

参加型のデータ収集の一般的な方法には、以下のようなものがあります。

- **参加型の農村評価:** 地域密着型のこのアプローチでは、住民を巻き込んで調査を行います。通常、フォーカスグループ（座談会）、マッピング、順位づけなどが含まれ、地域社会のニーズ、リソース、発展の機会といったトピックにかかわる情報を収集します。
- **フォトボイス:** 参加者が自分の経験や考え方を表す写真を撮ります。地元地域、日常生活、そのほかの題材を撮影し、写真の意味について説明してもらう場合もあります。
- **マッピング調査:** 重要な場所やリソース、知り合いのネットワーク、そのほかの主な特徴を示す地図、図表、またはコミュニティを表したそのほかの表現方法の作成などがあります。医療、教育、交通機関へのアクセスの状況に関する情報の収集に適しています。

## 同意とデータ管理

個人データを収集する際には、必ず本人から書面で同意を得るようにし、データを保護するための対策を講じてください。同意とは、その人が自由意志で自分の情報を提供し、自由意思で質問に回答すること、また、その情報がどのように使用される可能性があるかを了承していることを意味します。

## データ品質

このプロセスで重要なのは、有用かつ正確な情報を収集することです。収集したデータが指標と一致しない、またはプロジェクトの影響を受けた人を正確に数えていない場合、プロジェクトの報告や報道にそのようなデータを使うことはできず、今後のプロジェクトの改善にもつながりません。

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

# 必要なデータを 集める



## データ収集を実践に移す

どの指標のためにデータを収集しますか。

必要なデータはすでに存在しますか（二次データ）。それとも新たに収集する必要がありますか（一次データ）。

その情報をどのように収集しますか（観察、アンケート調査、文献）。

データソースは何ですか。どのくらいの頻度でデータを収集する必要がありますか。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 必要なデータを 集める

インタビューやアンケートを使用する場合、社会から疎外されている人びとにも十分に参加してもらうにはどうすればよいですか。

ほかにどのような方法を検討しましたか。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## この章のポイント:

➔ プロジェクトのストーリーを伝えるために、収集したデータをどのように活用するか

➔ 心を引きつけ、説得力のある方法でどのようにストーリーを伝えられるか

## ストーリーを伝えることの重要性

持続的な変化をもたらしている団体としてのロータリーの定評は、インパクトを生むために活動しているすべての会員の上に成り立っています。収集したデータは、プロジェクトが以下の人びとのためにどのような変化をもたらしたかを示すものとなります：

- ・ 地元地域の人びと
- ・ 寄付者／寄付団体
- ・ 協力団体
- ・ 入会候補者
- ・ 一般の人びと

### ・ ロータリー会員

収集した測定データを用いることで、クラブ／地区がどのように好ましい変化をもたらしたかを、説得力ある形で伝えることができます。これにより、これに共感した人びとがクラブ入会への関心を持ち、新しいパートナーシップが育まれ、より大きなプロジェクトで協力するための多様性のあるネットワークが築かれます。

地域社会にもたらした影響を明確に把握し、測定することは、クラブと地区のレガシー（遺産）の重要な一部です。データを最大限に活用することで、地域社会にとって最も価値あるプロジェクトを選び、改善を図って長期的なインパクトをもたらしましょう。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 成果をシェアする

プロジェクトの報告書は、資金の使途だけでなく、地域社会によりよい変化をもたらしたことを見せるものであり、プロジェクトの進捗、活動、課題、成果をシェアする重要な方法となります。

クラブと地区が実施するすべてのプロジェクトについて、報告書を作成しましょう。ロータリー財団の補助金を使用したプロジェクトでは報告書の提出が義務付けられていますが、あらゆるプロジェクトの報告書に以下の情報を含めることが重要です：

- ・ 主な目標に向けた進捗
- ・ プロジェクトで実行した（または実行中の）活動の活動
- ・ データの収集方法、主な指標の最新の測定値
- ・ プロジェクトの結果と成果を達成する上で直面した課題
- ・ プロジェクトの詳細な支出項目

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## シェアするためのそのほかの方法

義務づけられた報告書だけでなく、そのほかの方法で情報をシェアすることで、より多くの人にプロジェクトについて知つてもらうことができます。まず、誰に知つてもらいたいのか、どのような情報を伝える必要があるのかを考えましょう。媒体には以下のようなものがあります：

- ・ [『Rotary』誌 \(英文誌\)](#)
- ・ [ロータリーの地域雑誌](#) (日本では『ロータリーの友』)
- ・ 地区またはクラブのニュースレター

## プロジェクトを超えて

プロジェクトの実施後には、地域社会の人びとや協力団体など、プロジェクトに関与したり、プロジェクトの影響を受けたりした人びとの関係を維持しましょう。

これは、引き続きデータを収集していく上でも重要です。プロジェクト実施後の結果はすぐに評価できますが、多くの場合、成果とインパクトの実現にはより多くの時間がかかります。引き続きデータを収集することで、成果を十分に把握し、プロジェクトのインパクトを確認できます。

また、長期的な協力関係と信頼関係を築くことも大切です。プロジェクトの成果や測定結果から得られた洞察を共有することで、プロジェクトの持続可能性が高まるだけでなく、今後のさらなる協力へとつながります。

- ・ 「ロータリーボイス」(日本語) や [「Rotary Service in Action」](#) (英語) などのブログ
- ・ ソーシャルメディア
- ・ [地元の報道機関](#)
- ・ [奉仕プロジェクトセンター](#)
- ・ 入会、寄付、協力に関心を持ちそうな人や団体が出席するイベント

ロータリーの[ブランドリソースセンター](#)には、[世界を変える行動人](#)としてのロータリー会員を活動を伝えるための指針や情報が掲載されています。また、ストーリーをさまざまな人とシェアするためのテンプレートも用意されています。

## ロータリーのプライバシーの方針にご留意ください

データの使用許可の有無にかかわらず、常にデータのプライバシーに留意し、どのような情報をシェアするのが適切かを考慮してください。例えば、写真をシェアする場合、被写体全員からの許可が必要です。詳しくは[ロータリーのプライバシーの方針](#)をご参照ください。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## ストーリーをわかりやすく伝える

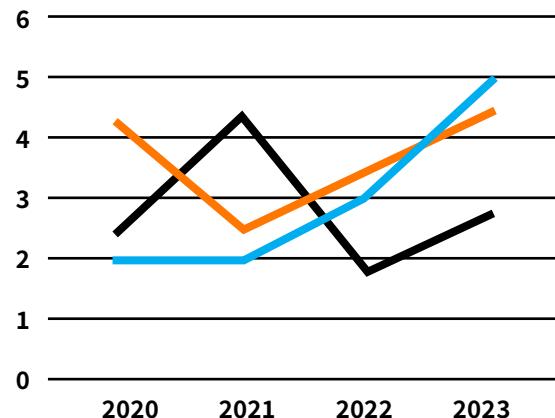
データを紹介する方法は、文章や数字だけではありません。ほかの方法を用いることで、要点をよりよく強調できます。

写真やビデオクリップを使えば、文章や数字だけでは伝えられないストーリーを伝えることができます。アクセシビリティや、動画の言語が母国語ではない人のために、字幕をつけることも忘れないでください。時折グラフを挿入することで、成果を視覚的に表現できます。

## データ視覚化のヒント

### 線グラフ

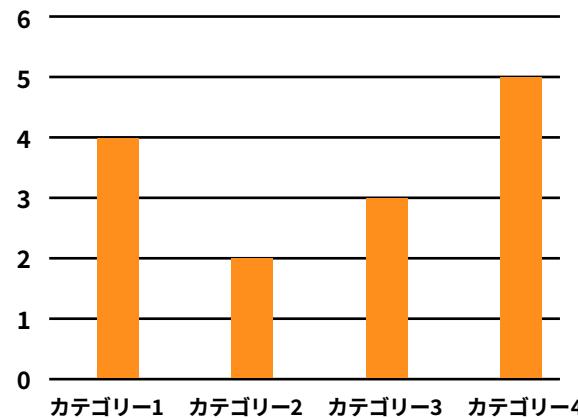
- 時間的な推移を示すのに適しています。
- 複数のカテゴリーのデータ比較には適していません。



インフォグラフィックは、プロジェクトの結果を簡潔かつ魅力的に表示できる方法であり、量的・質的なデータに加え、写真も挿入できます。使いやすい無料のオンラインツールが数多くありますので、自身のニーズに合う機能を備え、同意できる利用規約を持つツールを見つけましょう。このハンドブックの最後に、いくつかのリンクが紹介されています。

### 棒グラフ

- 複数のカテゴリーのデータ比較に適しています。
- 時間的な推移を示すのには適していません。



# データを使って ストーリーを伝える

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます 

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

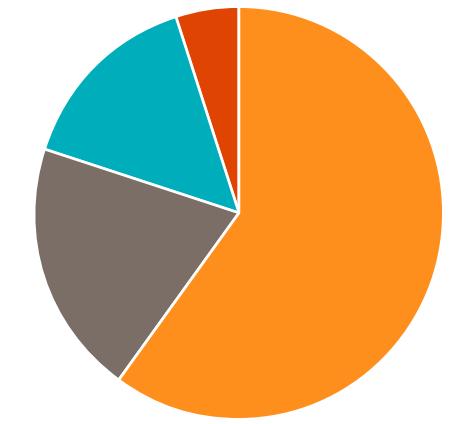
必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 円グラフ

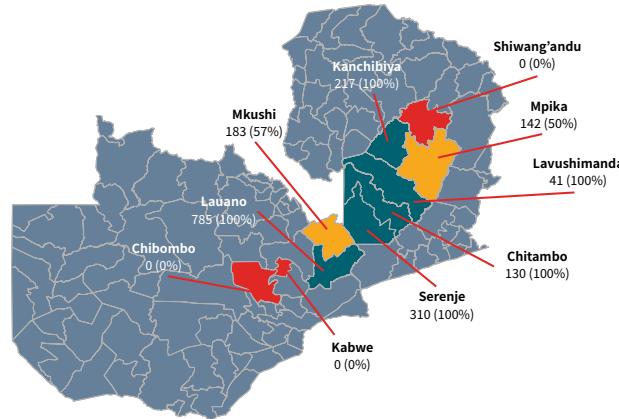


- 全体に占める割合を示すのに適しています。
- カテゴリー数が多すぎて読みづらい場合には適していません。

## マッピング

- 地理的データを表示し、詳細を示すためにデータを挿入するのに適しています。
- 地理的な要素が重要でない場合には適していません。

コミュニティ・ヘルスワーカーの飽和度 (500人に1人)  
2021年4月の開始以来、地区でプログラムが支援した研修を受けたコミュニティ・ヘルスワーカーの数



# 測定して インパクトを示す

この章のポイント:

- ➔ ロータリーにとってなぜ測定が大切なのか

## インパクト測定がロータリーにもたらす恩恵

世界中で好ましい変化を生み出してきたロータリーの歴史は、未来により大きな変化をもたらすための会員のモチベーションとなっています。このため、会員の活動のインパクトを明確に把握できるようにすることが重要です。

ロータリーの使命の遂行において多くの人の参加や協力を得るには、ロータリーの活動実績を具体的に示すことが不可欠です。このような証拠は、パートナー団体、若い世代、参加者、支援者の関心を引くだけでなく、地域社会との信頼関係につながります。

プロジェクトの測定とモニタリングに必要なスキルを身につけ、かつそれを実践するには、ある程度の努力が必要とされます。しかし、そのために助け合い、体験を分かち合いながら知識を得ることで、より大きなインパクトをもたらし、持続可能な変化をもたらすことができます。

ロータリーの本質は常に、会員同士の、また地域社会とのつながりにあります。力を合わせれば、ロータリーが世界をいかに変えているかをよりよく示すことができます。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## ロータリーのリソース

### プロジェクトの計画と測定

- プロジェクトを計画する際には、力を借りることのできる[地元のエキスパート](#)を見つけてみましょう。
- ロータリーには[プロジェクトの計画を支援するリソース](#)が数多くあります。プロジェクトの各段階で疑問や問題が生じた場合には、これらの人々に相談してみることができます。
- 「[地域社会調査の実施](#)」ハンドブックには、地域社会調査のさまざまな方法が紹介されています。活動する地域社会に最も適した方法を見つめましょう。
- ラーニングセンターにある「[インパクトの測定と報告](#)」のコースをご利用ください。

- ラーニングセンターにある「[より大きなインパクトをもたらす](#)」の学習プランに含まれている三つのコースをご利用ください。
- 「[Positive Peace Project Design Tool](#)」(積極的平和プロジェクト立案ツール、英語のみ)で、積極的平和の枠組みに沿ったプロジェクトを立案する方法をご覧いただけます。
- [ロータリーと米国国際開発庁 \(USAID\)](#)のパートナーシップを通じた取り組みの成果をご覧ください。

詳細は、My ROTARYの「[効果的なプロジェクトの立案](#)」のページをご覧ください。

## ロータリーの補助金

- ・「[大規模プログラム補助金ハンドブック](#)」をダウンロードして、受領資格、申請、選考の詳細をご覧ください。
- ・「[ロータリー財団 地区補助金 授与と受諾の条件](#)」には、地区補助金の受領資格と手続きが詳しく説明されています。
- ・「[グローバル補助金ガイド](#)」には、グローバル補助金を申請して効果的に持続可能な奉仕プロジェクトを計画することに关心のあるすべての方に役立つ情報が紹介されています。
- ・「[ロータリー財団 グローバル補助金 授与と受諾の条件](#)」には、グローバル補助金の受領資格と手続きが詳しく説明されています。
- ・「[重点分野の基本方針](#)」には、各重点分野におけるグローバル補助金の受領資格が説明されています。

- ・各重点分野の授与ガイドラインには、プロジェクトの種類ごとの受領資格が詳しく記載されています：

- 「[平和構築と紛争予防](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[疾病予防と治療](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[水と衛生](#)」分野のグローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[母子の健康](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[基本的教育と識字率向上](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[地域社会の経済発展](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン
- 「[環境](#)」グローバル補助金  
授与のガイドライン

ロータリーの補助金に関する詳細は、My ROTARYの[補助金の申請](#)のページをご覧ください。

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます

はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

以下をクリックしてページをお開き  
いただけます



はじめに

測定とその重要性

目標への  
道筋をつくる

指標を選ぶ

必要なデータを  
集める

データを使って  
ストーリーを伝える

測定して  
インパクトを示す

リソース

## 外部のリソース

### 測定と評価

- [Introduction to Program Evaluation for Public Health Programs: A Self-Study Guide](#) (英語) : 米国疾病対策センター (CDC) の枠組みに基づく評価活動の計画と実施に関するアドバイスを掲載したマニュアル。
- [Rapid Guide to Designing SMART Indicators](#) (英語) : SMARTの枠組みに沿った指標の作成方法を詳

しく説明 (IndiKitにより作成)。IndiKitは、さまざまな分野のプロジェクト向けに数百の指標を提供しています。

- [Data for Impact](#) (英語) : USAIDが支援するサイト。特に非政府組織や政府と協力する場合に参考となる、測定と評価活動の実施に関する指標、枠組み、ガイドが含まれています。

### データの視覚化

- [Canva \(キャンバ\)](#) : プロのような仕上げのプレゼンテーションやグラフィックを作成でき、ほかの人と共有できるウェブベースのソフトウェア。
- [Information is Beautiful](#) : アイデアを得るために参考できるデータ視覚化のコレクション。
- [Qualitative Chart Chooser](#) : 定性的データを提示する方法のリソースと例。
- [The Data Visualisation Catalogue](#) : データを表示方法の多数の例を紹介。